

新冠百話

第八十四話

「山奥の魚（伝説）」（要約文）

ある日、一人の男が笹やぶのある山を歩いていたら、ものすごい夕立（ゆだち）にあつてしまった。

そのうち、山頂近くに「ゴラ木」と呼ばれる空洞がある木を見つけた。これは都合が良いと思つてしばらく雨宿りをすることにした。疲れていたせいか、いつの間にか深い眠りについてしまった。

ふと目をさますと、若い男女の声が聞こえてくるではないか。一人ぼつちでいたのでうれしくなり、声をかけてみようと思つた。

「おい、どこへ行くんだ」と大きな声をかけてみた。すると、急に今まで聞こえていた男女の声がしなくなった。

おかしいと思つて耳を澄ませてみると、笹やぶの中でガサガサと音がする。おそろおそろ笹やぶをかきわけながらこつそりとのぞき込んでみた。

そうすると、たくさんの魚が夕立の雨を利用して山越をしているのが見えた。だから、魚というものはどんな山奥でも住んでいるのだ。

【解説】

このお話は、明和や万世に伝わるアイヌ伝説です。この辺りには「アクマツ川」という小川が流れ、新冠川と通じています。アクマツはアイヌ語で「魚がいる場所」または「釣り針」の意味があります。昔はヤマベや川ガニ、エビなどがたくさんいたそうです。今でもサケの遡上を目にすることがある自然が豊かな沢です。



自然が豊かで水がきれいなアクマツ川。近くにはアイヌの遺跡であるチャシ跡もあり、歴史や伝説が息づく場所である。

冬期間も『交通安全』をお願いします！

- 凍結路面でのスリップ事故防止
- 冬タイヤの確実な装着
- 飲酒運転の根絶
- 「ハンドサインでストップ運動」で事故防止 静内警察署

火災・救急出動状況

（ ） かつこ内は前年同期

区分	火災件数	救急件数	災害出動件数
10月	0件（0件）	24件（27件）	4件（3件）
7年1～10月	3件（4件）	252件（238件）	12件（16件）

交通事故発生状況

（ ） かつこ内は前年同期

区分	発生件数	死者	傷者
10月	0件（1件）	0人（0人）	0人（1人）
7年1～10月	5件（4件）	0人（0人）	6人（7人）

人のうごき

（令和7年10月末現在）

人口	4,944人	（前月比 △ 24人）
男	2,500人	（前月比 △ 9人）
女	2,444人	（前月比 △ 15人）
世帯	2,808世帯	（前月比 △ 7世帯）

戸籍の窓

10月6日～11月5日までの届出分（敬称略）

●おくやみ申し上げます

菅原 幸	86歳	北星町
洲瀬 健一	90歳	若園
藤澤 義夫	92歳	本町
小笠原美知子	95歳	本町
白取 春枝	84歳	北星町
茅野 俊美	66歳	節婦町

☆広報に掲載してほしくない方は届出のとき、町民生活課町民生活グループ住民係へお申し出ください。

●お問い合わせ先

町民生活課町民生活グループ住民係
☎ 0146・47・2112

町公式ホームページ



町公式フェイスブック

